

親子が互いの気持ちを短歌で表現  
第4回親守詩熊本県大会で入賞

12月1日、第4回親守詩熊本県大会入賞者の皆さんが市長を訪問し、10月16日に熊本市で行なわれた表彰式と、それぞれの作品について報告しました。

熊本県知事賞 河上明莉さん(南ヶ丘小1年)  
熊本県教育委員会賞 宮田和都さん(南ヶ丘小3年)  
入選【南ヶ丘小】益満拓真さん・竹内菜奈さん・工藤美紅さん・東 優美さん・石橋颯太さん・合志光陽さん・本田遥香さん・森田みゆさん(6年)・吉永夢絆さん・池田想生さん・倉橋暖乃さん・小松輝星さん・杉田紗彩さん(5年)・嵯峨菜理奈さん・藤本統子さん(4年)  
【合志南小】古川ゆりさん(6年)・橋口怜生さん(4年)



報告に訪れた南ヶ丘小の児童たち

障がいのある人にも優しいまちに  
音声訳グループこだまが南ヶ丘小で授業

11月22日、ボランティアの音声訳グループこだまの皆さんと視覚障がいのある高月洋一さん(武蔵野台)が、「みんなにやさしいまちづくり」をテーマとした南ヶ丘小学校3年生の授業に講師として参加しました。

授業では思いやりの大切さや高月さんの体験談、こだまの活動とその思いを紹介。子どもたちからは「自分にできるちょっとした手助けをしたい」「音声訳ボランティアになりたい」などの感想が寄せられました。



▲子どもたちにあいさつするこだまの皆さん  
後日、子どもたちから感想文集が贈られました

今月の表紙  
ことし1年の無病息災を願って  
灰塚区で石神さん祭り

1月6日、灰塚区の石神神社(菅原神社)で石神さん祭りが行なわれました。これは江戸時代から毎年この日に行なわれる祭りで、大きな石をご神体として祀り、五穀豊穡、家内安全、無病息災を願う行事です。

神社に続く小道には、灰塚区の住民が願いを書いた45個の灯籠が立ち並び、日暮れ頃に一つ一つ明かりが灯されます。神事後は、年始の顔合わせも兼ねて神社で交流会を開き、住民同士が親睦を深めていました。



手作りの灯籠

多くの住民が神事に参加しました

1票の大切さを学ぶ  
合志小学校で選挙の出前授業

12月20日、合志小学校で6年生を対象とした選挙出前授業を行ないました。これは、これからの社会を作る子どもたちに将来の政治参加を促すため、明るい選挙推進協議会が開催したものです。

授業では、実際の選挙機材を使って昨年行なわれた熊本県知事選挙を題材に模擬投票を体験。子どもたちからは、「18歳になったら必ず投票に行きたい」などの声が聞こえました。

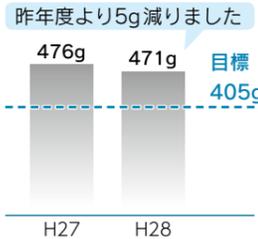


実際の選挙機材で投票する児童

燃やすごみの量を減らしましょう

本年度4~11月までの1人1日当たりの燃やすごみの量は、昨年度同時期の476gから5g減りました。今後も皆さんのご協力をお願いします。

1人1日当たりの燃やすごみの量(4月~11月)



昨年度より5g減りました

生ごみはしっかり水切り



資源物は分別して出す



廃蛍光管は拠点回収へ

割れないようケースなどに入れてね

白熱電球やLED電球は埋め立てごみへ

分解できる照明器具は分別して出してね!

家庭から出される廃蛍光管は、市内17カ所で拠点収集を行なっています。廃蛍光管は水銀などの有害物質の飛散を防止するため、元のケースに入れるか新聞紙などで包み、割れないよう工夫して出しましょう。割れたもの、白熱電球・LED電球、照明器具(分解できないものに限る)は、埋め立てごみで出してください。分解できる照明器具の本体は資源物B。プラスチック製のかさの部分は資源物Jで出しましょう。収集日や出し方は、ごみ収集予定表を参考にしてください。

廃蛍光管を出すときは割れないよう工夫しましょう

問い合わせ先 環境衛生課(合志庁舎)

☎(248)12002

環境 通信



素敵な人生 素敵なパートナー



男女共同参画推進懇話会 委員 左座 美紀

家事や子育ては、分担といっても五分五分や七対三など数字で示すことができるものではありません。「ここまでは、私がやったから今度はあなたの番よ。」と完全に分けてしまったのでは、家庭は成り立ちません。

私たちの年齢になると実家のことや子どもの自立のこと、自分の体調のことなど、問題はもつと複雑になっていくように感じます。

私が40歳で退職したときも、理由は一つではありませんでした。その後、専業主婦を挟み、いくつかの仕事に就き、現在に至っていません。周囲に支えられながら何とか今までやってこられました。夫婦二人ともフルタイムで朝から晩まで仕事をしてきた頃は、子

どもも幼く、朝一番に保育園に預け、延長保育をお願いし、迎えに行き、夜仕事があるときは祖父母に預けて遅くに迎えに行き、子どもを寝かせてから持ち帰った仕事をし、朝は夫と二手に分かれて保育園の準備をさせる、そんな毎日でした。よく続いたものだといながら感心することもあります。

そう感じるのには、今の自分の暮らし方によるものです。結婚当初から共働きだったので、夫は家事にとっても協力的です。ゴミ出し、庭掃除、犬の散歩と働く姿は近所の方にはおなじみです。以前は洗濯物も干していましたが、今は娘の担当です。

夫とも一年間ではありましたが、同じ職場で働き、仕事での苦労も垣間見ることができました。今回、男女共同参画推進懇話会の一員として学ぶ機会を得ましたので、私はどうだろう、甘えてはいないか、きちんと向き合っているのか、と自分に問いかけてみます。